

～～第8663回～～

春日山（山梨）

～H31.4.13～

前夜の雨と寒さがウソだったかのような眩しい朝日の中、7:00 マイクロバスで出発。途中休憩の道の駅朝霧高原では、正に雲ひとつない青空に、前夜の雪で宝永山まで化粧した富士山が美しい姿を見せていた。山梨県の芦川村に入り、鶯宿峠・リョウメンヒノキ入口の看板の所でバスを降り 9:30 スタート。風は冷たいが汗ばむような陽気の中、林道を歩く。林道脇の斜面には赤松とその倒木が多くあり、秋には松茸がたくさん採れるのだろう。林道の「冬期閉鎖中」のフェンスを越えて進み、落ち葉のクッションのように心地よい山道を登って 10:40 鶯宿峠山頂(1050m)に到着すると「鶯宿峠のリョウメンヒノキ」と言われる大木が倒れていた。この大木は桧に似ているが桧ではなく、樹種が不明であることから、地元では「ナンジャモンジャ」と呼ばれているが、ヒトツバタゴでもなく、植物学者の牧野富太郎が葉の形状から「リョウメンヒノキ」と命名したもので、山梨県の天然記念物に指定されている。そこからまとまった雪が残る北側の斜面を見下ろしながら 40 分程登って、やや開けた尾根に出ると、甲府盆地を挟んで北側に南アルプス北岳、甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳から秩父の山々までを美しく見渡すことができた。その先、黒坂峠への看板のある分岐点から少し下ったあと、雪が 10cm程残る急斜面を滑らないように慎重に登り 11:55 春日山連山の最高峰である名所山(1236m)に到着した。春日山に向けてもうひと踏ん張り 12:40 電波塔が建つ春日山山頂に到着した。山梨百名山のひとつであるが、訪れる登山者も今はさほど多くないのだろう、山道は枯れ枝等で覆われていた。振り返ると、名所山からの下りは結構な高低差と角度のあることが解った。山頂で昼食休憩後、同じ山道を下って黒坂林道を下る。1 回の休憩を挟んで 14:10 芦川ふるさと総合センター前で待機してくれていたマイクロバスに戻った。上九の湯温泉で汗を流してリフレッシュし、帰路も道の駅朝霧高原で休憩、富士山が朝方と変わらず大きく美しく、好天の下でたくさんの牛が放牧されていて、富士山との組み合わせが絵のようだった。風は冷たかったが日差しは暖かく、桜がちょうど見頃で美しい中、予想以上に変化に富んだコースは、雪がたくさん残っている所、溶け始めている所が入り交じり、フキノトウ等も姿を見せて、春の到来を感じることができた素晴らしい一日だった。

参加者：21 名（静岡北 19、静岡西 2）

天気：晴れ

地図：河口湖西部

コースタイム：新静岡セノバやっぺい前 700＝芦川鶯宿峠林道入口 930…鶯宿峠 1040…名所山 1155…春日山昼食 1240-1310…県道（総合センター前）1410＝上九の湯＝JR 静岡駅 1730

記録：静岡北支部 MW

